

平成 30 年 1 月 18 日(木)  
愛知県美術館  
企画業務課企画普及グループ  
担当：越後谷  
Tel.052-971-5511 内線 325

## 平成 29 年度愛知芸術文化センター・愛知県美術館

### オリジナル映像作品の制作作家について

愛知芸術文化センターでは、映像表現の新たな可能性を切り開くことを意図し、映像における身体とは何かという統一テーマを基に、一年一本のペースで気鋭の作家に制作を委嘱する「オリジナル映像作品」を、開館以来、シリーズとして継続しています。

通算 27 本目となる平成 29 年度の制作作家として、映像作家の小森はるかが選出されました。東日本大震災後に被災地で生きる人々の暮らしを、飾らぬ自然体で捉えた映画『息の跡』(2016 年)で注目されたこの作家の、待望の新作となります。完成した作品は平成 30 年度、愛知県美術館の「第 23 回アートフィルム・フェスティバル」での初公開を予定しています。



#### ●作家プロフィール

小森 はるか (こもり はるか/28 歳、1989 年静岡県生まれ)

2009 年、映画美学校第 12 期初等科修了。

2011 年、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業、同大学院入学。

東日本大震災後、画家・作家の瀬尾夏美と「小森はるか+瀬尾夏美」のユニットを組み、東北地方でのボランティア活動のため、レンタカーで出発。

そこで出会った人々の言葉をきっかけに、津波に襲われた地域のすべてを見てまわろ

うと決意。ビデオ、写真、言葉、スケッチ等を用いた記録活動を開始。小森は映像、瀬尾は写真、テキスト、スケッチ等を担当。「小森はるか+瀬尾夏美」のアーティストユニットとして現在も活動を継続。

2012年、岩手県陸前高田市に拠点を移す。地元の飲食店でアルバイトをする傍ら、風景と人々の言葉の記録をテーマに制作。

2015年、東京藝術大学大学院修士課程修了。仙台市に拠点を移し、東北で活動する仲間とともに、記録を受け渡すための表現をつくる組織「一般社団法人 NOOK」設立。修了制作となるドキュメンタリー『息の跡』(2016年)は、2017年劇場公開され高い評価を得る。

《参考》オリジナル映像作品リスト

- (1) 平成3年度 岩井俊雄『愛知芸術文化センター・シンボル映像』(1992年) \*環境映像
- (2) 同 4年度 勅使川原三郎『T-CITY』(1993年)
- (3) 同 5年度 天野天街『トワイライツ』(1994年)
  - 「第41回オーバーハウゼン国際短編映画祭」グランプリ(1995年、ドイツ)
  - 「第44回メルボルン国際映画祭」短編部門グランプリ(1995年、オーストラリア)
- (4) 同 6年度 ダニエル・シュミット『KAZUO OHNO』(1995年)
- (5) 同 7年度 キドラット・タヒミック『フィリピンふんどし 日本の夏』(1996年)
- (6) 同 8年度 大木裕之『3+1』(1997年)
- (7) 同 9年度 前田真二郎『王様の子供』(1998年)
- (8) 同 10年度 園子温『うつつみ』(1999年)
- (9) 同 11年度 和田淳子『ボディドロップアスファルト』(2000年)
  - 「第6回スプリト国際新作映画祭2001」ビデオ部門特別賞受賞(2001年、クロアチア)
- (10) 同 12年度 石田尚志『フーガの技法』(2001年)
- (11) 同 13年度 白川幸司『眠る右手を』(2002年)
- (12) 同 14年度 帯谷有理『サイケデリック・オルガン・パンダ』(2003年)
- (13) 同 15年度 槌橋雅博『動・響・光(Ugoki・Hibiki・Hikari)』(2004年)
- (14) 同 16年度 七里圭『ホッテントットエプロンスケッチ』(2005年)
- (15) 同 17年度 辻直之『影の子供』(2006年)
- (16) 同 18年度 三宅流『究竟の地ー岩崎鬼剣舞の一年』(2007年)
- (17) 同 19年度 大山慶『HAND SOAP』(2008年)
  - 「ヨコハマ国際映像祭2009」(CREAM)コンペティション優秀賞

- 「第 56 回オーバーハウゼン国際短編映画祭」同映画祭賞(2010 年、ドイツ)
- 「第 13 回広島国際アニメーション映画祭」優秀賞(2010 年)
- 「第 8 回イマジナリア映画祭 2010」短編アニメーション部門グランプリ(2010 年、イタリア)
- 「第 14 回オランダアニメーション映画祭」短編部門グランプリ(2010 年、オランダ)
- 「第 12 回アニメーション映画祭・アニメテッド・ドリームス 2010」グランプリ(2010 年、エストニア)
- 「第 49 回アナーバー映画祭」ベスト・アニメーション賞(2011 年、アメリカ)他
- (18) 同 20 年度 寺嶋真里『アリスが落ちた穴の中 Dark Märchen Show!!』(2009 年)
- (19) 同 21 年度 柴田剛『ギ・あいうえおス -ずばぬけたかえうた-』(2010 年)
- (20) 同 22 年度 牧野貴『Generator』(2011 年)
- 「第 41 回ロッテルダム映画祭」短編部門タイガーアワード〈最高賞〉(2012 年、オランダ)
- (21) 同 23 年度 森弘治『Case Study』(2012 年)
- (22) 同 24 年度 船橋淳『放射能』(2013 年)
- (23) 同 25 年度 三宅唱『THE COCKPIT』(2014 年)
- (24) 同 26 年度 山城知佳子『創造の発端 -アブダクション／子供-』(2015 年)
- (25) 同 27 年度 田村友一郎『アポロンの背中』(2016 年)
- (26) 同 28 年度 草野なつか『王国 (あるいはその家について)』(2017 年)

**本件に関する問合せ先**

オリジナル映像作品担当:越後谷 TEL: 052-971-5511(代) E-mail: takashi\_echigoya@pref.aichi.lg.jp